


視覚・聴覚というモダリティの 違いが情報処理の反応時間 に及ぼす影響



安藤ゼミ 日野 幸香

問題関心

- ・人の話を聞けない若者
 - ・算数や数学の文章題において問題の意味が理解できない児童
- 現代の子供たちや若者の情報処理能力について言及
- ☆「入試に国語リスニング 公立高、今春8県に拡大」

方法



<被験者>

現役大学生、大学院生22名

<装置>

刺激の呈示、反応の測定にはパーソナル・コンピュータ及びICレコーダーを使用。

<手続き>

- ①実験の流れを説明
- ②実際にパソコンを使ってプログラムの操作方法を練習
- ③実験開始

この実験から正答率と反応時間を計測し比較した。

基本的な実験の流れ

①課題文呈示
(内容記憶)



②問題文呈示
(再認)

ジェーン
の車は藍
色です。

ジェーン
の車は
青色です。

視覚、聴覚両パターンに対し、
行った。

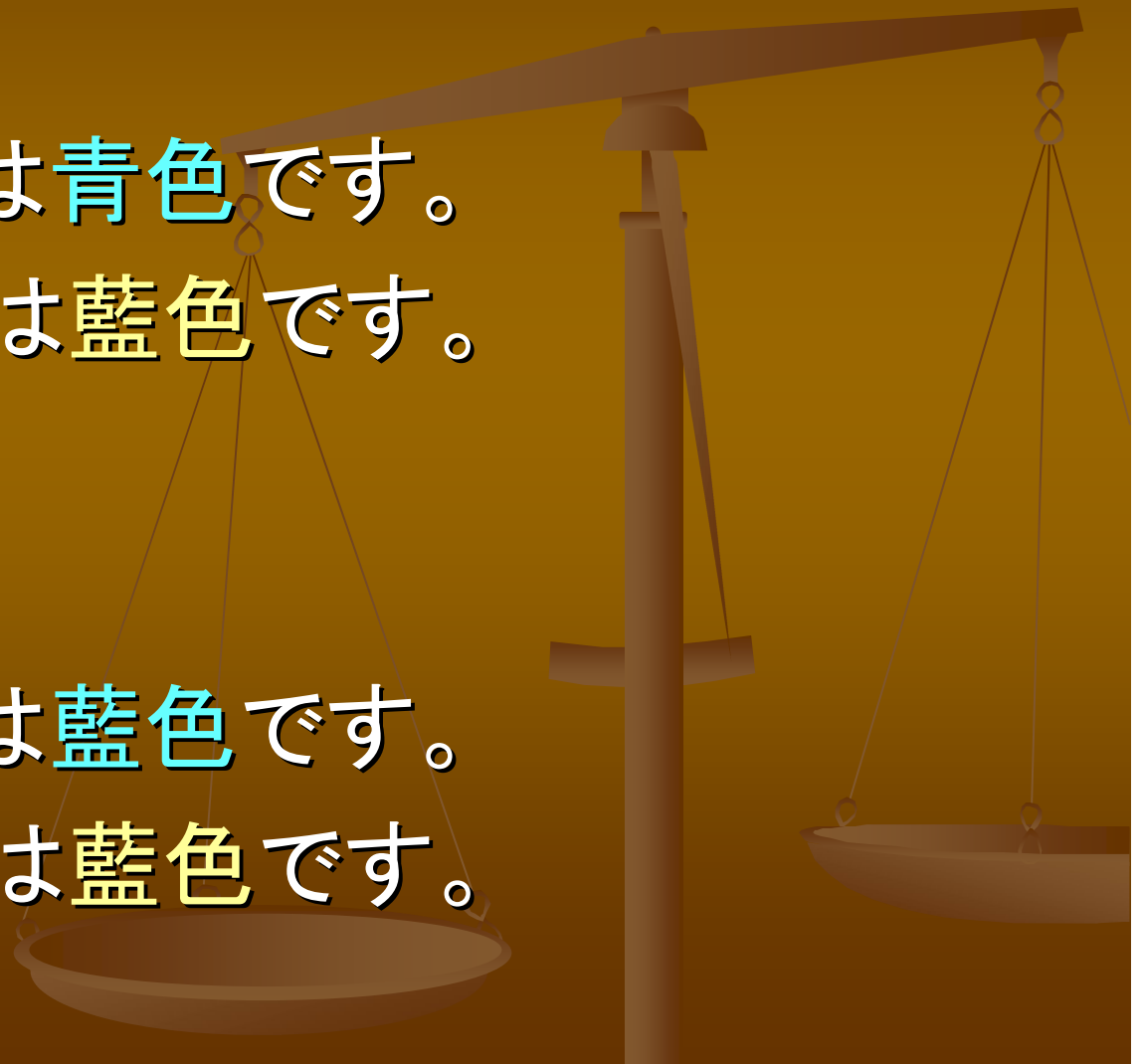
実験材料

<課題文一例>

- ①ジェーンの車は青色です。
- ②ヘレンの財布は藍色です。

<問題文一例>

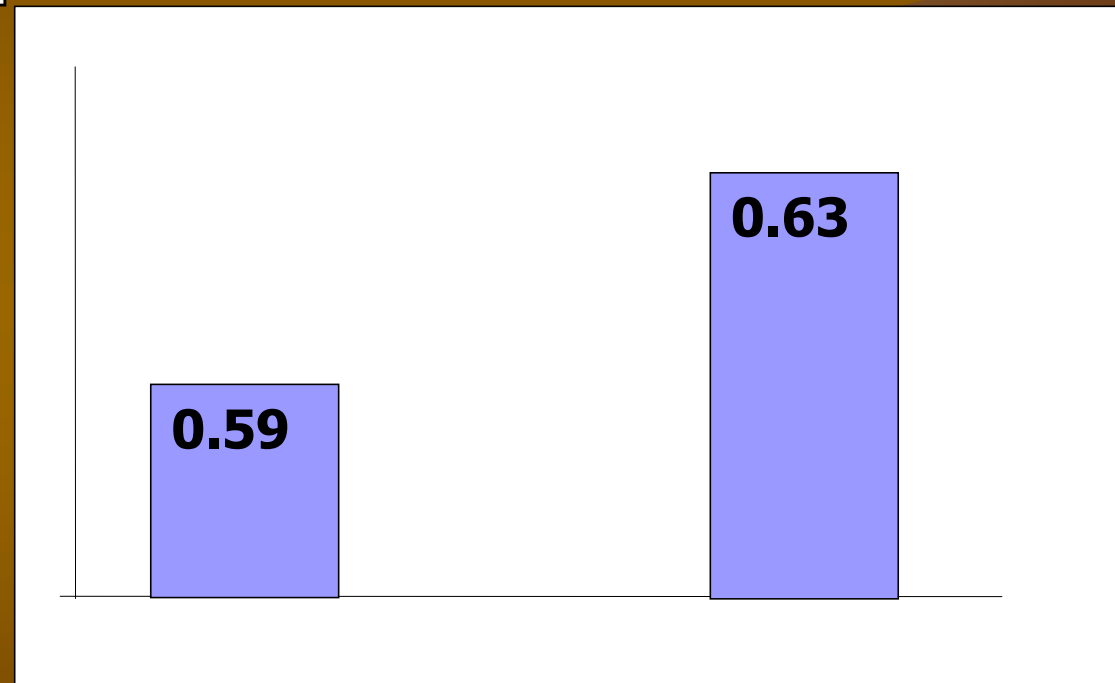
- ①ジェーンの車は藍色です。
- ②ヘレンの財布は藍色です。



実験結果1

【反応時間】

反応時間
(秒)



視覚

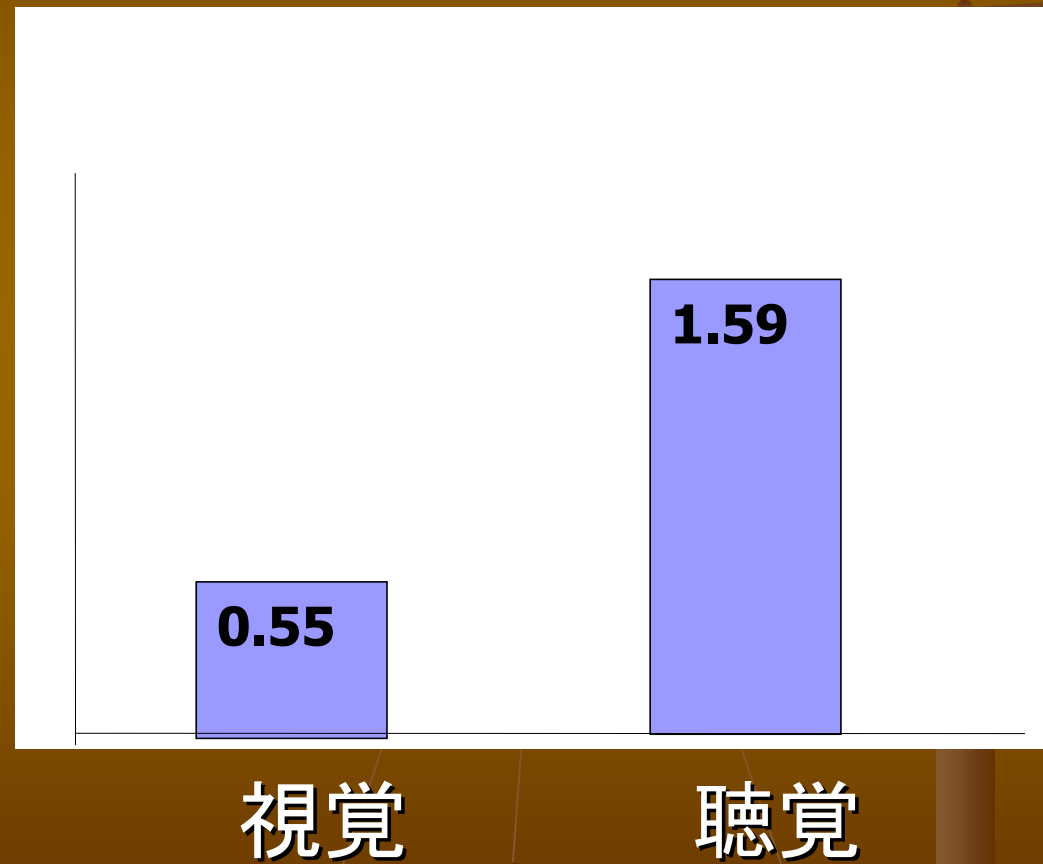
聴覚

⇒視覚がより反応が早い。

実験結果2

【誤解答数】

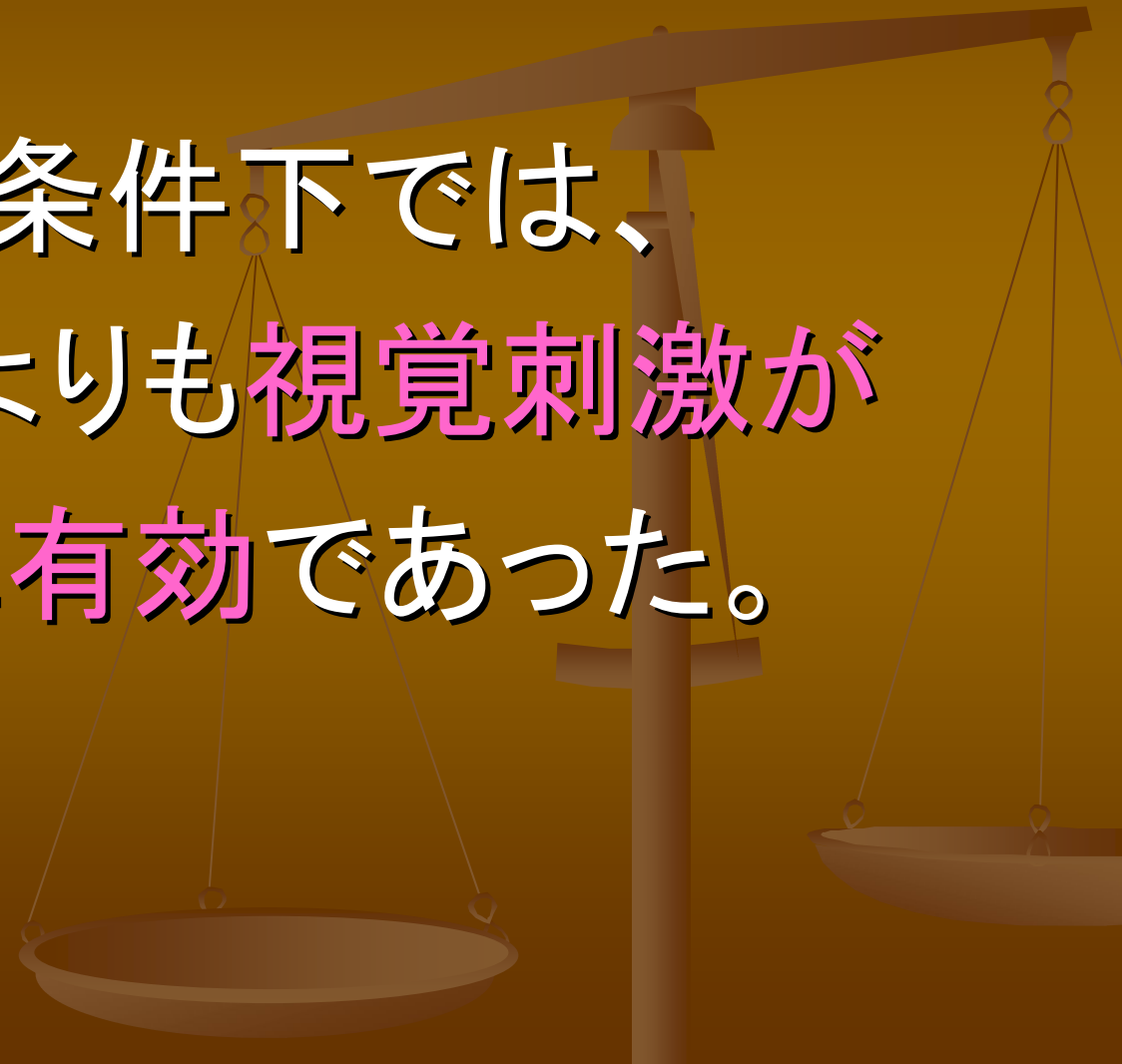
誤解答数
(問)



⇒視覚がより正答率が高い。

実験結果(まとめ)

→本実験の条件下では、
聴覚刺激よりも**視覚刺激が**
より記憶に有効であった。



考察1

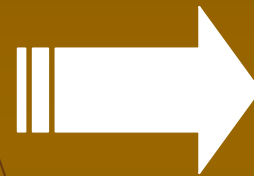
- リハーサルの有無や頻度が大きな要因のひとつ

* リハーサルとは予行演習あるいは反復学習のことであり、繰り返し声に出したり心の中で復唱したりして記憶を強化するというもの

考察2

視覚刺激・・・能動的

聴覚刺激・・・受動的
い



視覚がより
リハーサル
を行いやす

→聴覚刺激に比べ視覚刺激がより記憶に
有効であるという結果となったと考えら
れる。